



国土交通省道路局長 様

建設 第92号2  
平成19年4月23日

津南町長 小林三喜



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について

平成19年4月2日付け、国道企第114号で依頼のこのことについて、別紙のとおり提出いたします。

担当 津南町役場建設課  
建設課長 山本春郎  
電話 0257-65-3116

## 中期計画意見

新潟県津南町

- ・中山間地では道路は命の道であります。
- ・道路が未整備のため絶えず生命が危険にさらされております。緊急疾患の場合、都市部では助かる命もこの地域では時間切れで終わりとなることもあります。
- ・当町では「平成18年豪雪」により、国道405号が雪崩危険のため交通止となり国内外に大きく報道されました。この道路は景勝地「秋山郷」を貫き、その先、長野県志賀高原につながる観光道路であります。更に冬期間は唯一の生活幹線道路であり文字どおり生命線であります。しかし、国道と言っても名ばかり、雪崩、落石、転落の危険は絶えず、すれ違いもできなく、通行するだけでも命がけであります。おかげさまでここにつきましては、昨年より迅速な対応を継続していただいております。感謝申し上げます。
- ・このような道路の解消には、なにも高速で走る規格の高い道路整備を望んでいるわけではありません。速度は多少落ちても、いつでも安全に通行できればとの思いであります。
- ・中山間地ではこのような道路がいまだ数多く存在しています。このような道路整備で障害となるのは、「費用対効果」であります。それももちろん大切な要素ですが、そのほかにも道路は「人と人、心と心をつなぐ命の道」でもありますので、そのような視点も重要な要素としてとらえていただきたいものであります。
- ・道路整備はいまだ道なかばであります。道路特定財源が余るといっては到底考えられませんが、仮に余っているとすれば、何故、未整備の国道が県道が市町村道がこんなに数多く残されているのでしょうか。理解に苦しみます。もっと効果的に道路整備に使う方法があるのではないのでしょうか。補助率を上げることが地方分権に逆行するのであれば、金を地方に回すことはできないのでしょうか。地方も裏負担が多額で難儀しているのが現状であります。